

埼玉親善大使レポート

オーストラリアクイーンズランド州サザンクロス大学派遣

手計 花奈

はじめに

私は2020年2月29日から3月22日まで埼玉親善大使としてオーストラリアにあるサザンクロス大学に短期語学留学をさせていただきました。このプログラムは奨学生がサザンクロス大学で留学するとともに、現地の人々や文化に触れることで、埼玉県とクイーンズランド州の相互理解を深めていくことを目的としています。現地での生活は私にとって、なかなか経験することのできない素晴らしいものとなりました。

当レポートを通じて、次年度以降の当プログラムにて派遣を考えている方々の参考になれば幸いです。

大学生活について

私はサザンクロス大学という、クイーンズランド州にある公立大学の付属学校で英語を学びました。大学の授業としては3限まであり、1限と2限の間に15分の休憩、2限と3限の間に30分のお昼休憩、午後1時15分に授業が終わる時間割でした。

1、2限では各クラスで語法やリスニング、プレゼンテーションなどの授業、そして3限は他のクラスと合同でディスカッションの練習を行いました。ここでの授業は互いの考え方を学び、日本で受ける授業とは違う視点で文法を学びました。授業の受け方からも色々な国から来た学生の性格の違いが垣間見られたのでとても貴重な体験となりました。

特に私が驚いた、他の国の学生と日本の学生の授業の受け方で大きく違った面は発言量です。例えば、同じグループになったブラジル人の男性は授業中に思いつくとすぐに発言していました。その一方、私は発言するときに語法の間違いを気にしながら話す癖がついていたため、ほとんど発言できませんでした。そのことから私は積極性の大切さを痛感しました。また、授業に関して、週に1回レベル確認のテストがありリスニング、スピーキング、ライティング、リーディングのいずれかの試験を行いました。そこは現時点での自身のレベルを確認する絶好の機会でした。

金銭管理、現地での通貨事情

オーストラリアのお店では大体クレジットカードを使用できました。私は特にナイトマー



ケットなどの出店ではクレジットカードを使えないと思っていたので、使えた時は驚きました。私たち短期留学生は友達と割り勘をするときなどに必要な現金を少しだけ持っていました。現地の大学生の友達はアプリを使い割り勘もしていたので、現金は実際ほとんど必要ないようでした。

また、現地の物価に関しては大体のものは日本と同じくらいでしたが、外食費が日本より高く、一回の外食で20ドルほどかかったことには驚きました。

環境、気候

留学の中で、最も感動したことは星空です。というのもオーストラリアは夜が早く、夜11時には家族全員が就寝します。そのため電気がどの家でもほとんどついておらず、見たこともないほどの数の星を見ることができます。時には天の川もはっきり見ることができる日もありました。気候に関しては、夏の終わりかけだったこともあり、最初はかなり暑いと感じましたが、だんだん涼しくなりました。また、1週間ほどスコールがかなり頻繁に起きた期間がありました。日本のスコールと違い、激しく降る時間が長く、降ったりやんだりを繰り返し少し厄介なので、折り畳み傘は必携でした。窓を開けているときにスコールが起これ、部屋の中が悲惨なことになった事も今となってはいい思い出です。もう一つ必携品として、海外の虫よけが手放せませんでした。オーストラリアには夏に日本よりも強力な蚊がおり、日本の虫除けはあまり効かないと言われていた為です。ただし、炎症の強さには個人差があり、ずっと痒みが続く人もいればすぐに痒みが引いてしまう人もいました。



食事

食事に関して朝はピーナッツバターを塗ったトーストとフルーツ、コーヒーでした。時間のある日、土日にはホストファザーが目玉焼きやサラダを作ってくれました。お昼はマザーが作ってくれたサンドイッチとフルーツでした。サンドイッチの中身はマザー特製のサラダを挟んでくれたり、チキンとレタスを挟んでくれたり、栄養を考えて作ってくれました。時々、酢飯を使ってツナの巻きずしを作ってくれたのでとても感動したのを覚えています。夕食はロースト野菜とお肉がメインでした。マザーの料理はとてもおいしく、いつも食事の時間が楽しみでした。また、友達とはナイトマーケットの屋台で食べたり、アサイーボール

を食べに行ったりしました。ナイトマーケットでは生演奏を聴きながらご飯を食べたり友達と騒いだりとても楽しいひと時を過ごしました。



大学周辺の様子、交通

交通に関しては、大学の隣に空港があり、バスが多く出ているので、交通の便はとても良かったです。また、バスでは少し行きづらい場所も Uber などの配車アプリが浸透していたおかげで簡単に行くことが可能でした。また、バスに関してですが、オーストラリアのバスは手を挙げないと止まってもらえません。私は初めて乗るとき、そのことを知らず、隣で待っていた方に教えていただき驚きました。また、バスの中に停車場所をお知らせする掲示板がありませんでした。なので、バスアプリにていつも自分の居場所と目的降車停留所のにらめっこをしていました。慣れてきて、外の景色を楽しんでいたら終点なんてことも時々ありました。

乗り物に関して特に印象に残ったのは、バスの中での挨拶です。乗るとき、降りるときはいつも一言運転手と言葉を交わす方が多いのがとても印象的でした。挨拶だけする方もいれば会話を始める方もいて自由で賑やかなバスの中の雰囲気が好きでした。また、一回サーフボードをもって水着姿でバスに乗る方がいてとても驚きました。日本では見ることのない光景だと思います。

IC カード事情に関しては、オーストラリアでは日本の suica の代わりに go card があり、このカードはクイーンズランド州内共通のカードで州内のバス、電車、トラムに利用できたのでとても便利でした。



治安

オーストラリアの治安は比較的良いと感じました。念のため、お財布はバッグの底の方にしまい行動していましたが、特に危険な目に合うことはありませんでした。一人で出歩くことは一切せず、カジノやクラブなど少し危ないところに行かなかった、お酒も1、2杯までしか飲まなかったということも一因としてあるとは思いますが。また、遊びに行くとき、パスポートは必携でした。というのも、レストランに行くにしてもホテルに宿泊するにもパスポートチェックを受けるためです。最初はそのことを知らずにレストランに行こうとしてしまい、セキュリティーの方に門前払いを受けてしまいました。

週末の過ごし方

私は滞在中、近くの動物園、遊園地に行ったり、サーファーズパラダイスとブリスベンに旅行したりしてきました。動物園ではコアラを抱っこできることが印象的でした。また、カンガルーと触れ合え、羊の毛刈りショー、アボリジニの伝統的なダンスを見られるのはこの動物園ならではののではないかと感じました。遊園地に関しては映画に登場するキャラクターが園内を歩いており、気軽に写真を撮ってもらえるのが印象的でした。特に最後はキャラクターが集合してパレードを行うので閉園まで楽しむことができました。サーファーズパラダイスに関しては特に海が感動的でした。今まで見たことのないほど広く、きれいな海に圧倒されました。また、海の周辺にはショップやカフェがたくさん並んでおり、購入したものを海辺で食べることができるので楽しいひと時を過ごせます。ブリスベンに関しては伝統的な建物が多くありました。特に感動したのはクイーンズランド大学の外観です。映画に出てくるような建物で、オーストラリアの中で最も美しいキャンパスにも選ばれています。



埼玉親善大使の活動

ホストファミリーの祖父母がイギリスから来る事により親族が集まる機会があったので、私は日本から持参した狭山茶を振舞いました。私の家族はみんな日本が好きな家族だったので好評でした。そこで埼玉県のパフレットを用いて埼玉県がどんなところであるか、何

が有名なのかを話していたところ、「埼玉県に行ってみよう」という言葉を聞いたので嬉しかったです。また、私のホストファミリーの 2 人の子供たちは日本語を習っていたこともあり、日本に興味を持ってきてくれたので、イラストで日本語クイズをしたり、ひらがなを教えたりしました。



最後に

私は 1 か月間のホームステイをしたことがなかったこともあり、ホストファミリーと仲良くやっていけるか、今から留学しても新しく学べることは多くはないのではないかと、留学に行く前はマイナスなことばかり考えていました。心配ばかりをしていましたが、今はこのメンバーで学べたこと、一緒に過ごせたことを誇りに思っています。また留学を通して、とても貴重な体験をさせていただきました。海外の方々と関わり自身の考え方を見直せたこと。日本人だけれど海外の大学に進学する事で、自分で道を切り開いていった友達と関わったこと。伝えようと努力すれば伝わる事を体験できました。また、自由度の高く自分なりのプログラムを組める留学だったので、悔いを残すことなく一生忘れることのない留学となりました。このような機会を提供してくださった埼玉県職員の皆様、サザンクロス大学関係者の皆様に深く感謝いたします。